

■ 肢体不自由のある子どもたちへの実践事例

肢体不自由の子どもたちの可能性を伸ばす

— マルチメディアDAISY図書活用の試みVI

〈電子図書の活用で広がる学びと出会い〉

東京都立光明学園
主任教諭 達直美

はじめに

東京都立光明学園は、昨年度、肢体不自由教育部門と病弱教育部門の2部門を併置する特別支援学校として2年目を迎え、今年度は新校舎が落成しました。

当校は、両部門の専門性を活用し、障害による学習上または生活上の困難に対する主体的な改善・克服や健康の回復・保持増進を図るとともに、一人ひとりの能力・特性などを最大限に伸ばし、学園生の自立と社会参加を切れ目なく支援できる学校を目指しています。

目指す学校像と教育目標

ここでは、マルチメディアDAISY図書館の活用にかかわる部分を抜粋して紹介します。

【目指す学校像】

- 日々の学校生活や部門内・部門間の交流、地域との結びつきやかかわり

を通じて連帯感を高め、将来の自立と社会参加に必要な不可欠な社会性を育むことのできる学校

- ICT（情報通信技術）機器を活用し、意思表示の手段や外部とのかかわりをもつことで、生活や学習に対する意欲および自己表現力を育むことのできる学校

【学校教育目標】

- 自らの夢の実現に向けて、確かな学力を身に付ける。
- 健康で心豊かに、安全に生活する力を身に付ける。
- 互いの人格を尊重し、豊かな人間関係を築く力を身に付ける。
- 自己の役割を担い、協力・協働して、主体的に自立・社会参加する力を身に付ける。

学校の教育活動は、目指す学校像や学校の教育目標に基づき行われます。マルチメディアDAISY図書を活用することは、校訓である「可能性の追求」

を実現することの一つです。どんなに重い障害があっても一人ひとりに潜在する可能性を引き出す機会を作ること、日々の生活がより豊かになり、卒業後の生涯学習にもつながると考えます。その実現に向けて、ICTを活用した教育活動、読書活動に親しむための環境整備などを実践しています。

肢体不自由部門の実践

肢体不自由部門の児童・生徒は、障害特性から生活体験・社会体験が少ない状況にあります。その部分を補うのが図書活動です。今年度も、一昨年度から実施している「お話宅急便」を継続していますが、ここでは新たな取り組みを紹介します。

(1) 研究テーマ

「肢体不自由の子どもたちの可能性を伸ばすマルチメディアDAISY図書の試みVI」

(2) 研究目的

肢体不自由の生徒の可能性を最大限に引き出すためのマルチメディアDAISY図書の活用を行う。

【目的】

- ①本への興味・関心をもち、新たな知識を身に付け、学習への意欲を高める。
- ②ことばの習得・読み書きの力を身に

付ける。

- ③人とかかわる機会を通してコミュニケーション力を高める。

児童・生徒の学習意欲の向上、自己肯定感の向上・生涯学習へのつながりなどに期待しています。

【期待する生徒の姿】

- 本を読むことで世界を拓げ、いろいろな事柄への興味・関心や学習への意欲が高まる。
- 本を読むこと、読み聞かせ活動での役割を通して、自分でもできるという自己肯定感を育み自信がもてる。

(3) 実践事例1

「地域に住む高齢のボランティアさんとの交流」

① 対象：中学部

知的代替の課程に学ぶ学習グループ8名（1年・1名、2年・3名、3年・4名）

② 活用の場面

職業家庭の授業

使用機器…大型TV・大型絵本・iPad

③ 活動の内容

- 『おおきなかぶ』の絵本をボランティアが英訳をして読み聞かせをする。
- 生徒は、大型TVに映し出されたマルチメディアDAISY図書の画面と日本語訳を見ながら、ボランティアの英訳を聞く。
- ポイントのフレーズでは、画面を静

止し、オノマトペをリピートする。

④ 活動に至った経緯

縁があり、地域のボランティアセンターを通じて「英語を使ってご活躍されていた方で、現在は車椅子生活を送られている方なのだが、学校で手伝えることはないだろうか」というお話をいただいた。英語が得意であるということで、絵本の読み聞かせをお願いすることになった。その際、マルチメディアDAISY図書『おおきなかぶ』を活用することで、生徒にとって理解と関心を深めることができると同時に、地域の人とのかかわりが深められる機会になると考え、実践に至った。

⑤ 実践後の様子

- ボランティアにとっては、何かの役に立ちたいという部分で自己肯定感が得られ、子どもたちとの交流もできたことで満足される結果になった。
- 子どもにとっては、慣れ親しんでいる『おおきなかぶ』を選択し、大型TVでマルチメディアDAISY図書を視聴することで違和感なく、英語での読み聞かせを集中して聞くことができた。日頃から英語の授業で学ぶグループであったことも関心を深める機会になった。また、お年寄りとの交流でより親しみを感じ、自ら寄り添いに行くなど積極的なかかわりも見られた。

⑥ マルチメディアDAISY図書の可能性

本を読むことで、言語活動や興味・関心を深めることもねらいの一つであるが、この活用を通して、人との出会いの機会を意図的に作ることができる。ボランティアとの交流は、学校現場だけでなく、福祉施設など幅広い活用の可能性があるのではないかと考える。マルチメディアDAISY図書を活用することで、できなかったことができるようになる、人の役に立つことができる機会をつなげることができたことが、今回の一つの成果である。

(4) 活用の事例2

「自分で本を読み、光明の歴史を学んだ！」

① 対象 高等部

知的代替の学習グループ3年生

手足に付随運動があり、日常生活の中で支援を要する。自分の意思をしっかりもち、発言力もありいろいろなことに関心を持ち探究心がある。

② 活用の場面

休憩時間・研究で寄贈していただいたiPadを貸し出し、自宅で視聴。

③ 活動の内容

歴史が好きで、自分が関心をもつ内容を選択。

読み終えた後は、感想文などを代筆で作成する。

④ 活動に至った経緯

〇〇したいという思いがあっても、

自分の身体の付随運動や緊張が強くなることでいろいろな支援が繋がらないところがあり、日常生活の中で我慢する場面も多い。マルチメディアDAISY図書を活用することで、自分で本のページをめくることがなく、読書ができる環境が整えられ、自宅などで楽しむ機会があると提案した。

⑤ 実践後の様子

歴史が好きであるということで『あんずの木の下で』をすすめた。休みの日に、自宅で本を読み、光明学園の戦時中の様子などを知り、自ら感想文を書き提出してきた。読み聞かせと自分で文字を読むことを選択しながら活用している。

マルチメディアDAISY図書の活用で学びたいという思いが実現し、自己肯定感が高まった。



まとめ

マルチメディアDAISY図書の活用は、障害の程度や状況にかかわらず取り組めるものです。肢体不自由部門の子どもたちの実態は、年々重度化していますが、マルチメディアDAISY図書にふれる機会を通して本に出会う楽しさを知り、興味・関心の幅が広がる場面に出会います。そのことにより、文字言語の獲得・言語や文章の表現力の向上が期待できますが、この活用を通して人とかかわる力も培うことができると考えます。

私たち教員は、子どもたちが学ぶことの楽しさや興味・関心をもてる機会を豊かな発想で支援していくことが必要です。

当校の課題としては、図書の充実が進む中で、マルチメディアDAISY図書コーナーを設定し、誰もが簡単に視聴できる環境を整えることや手軽に視聴できるiPadに実態に応じた本を選択して入れていくことが挙げられます。

そのことで、さらに校内すべての教育課程に学ぶ子どもたちが活用でき、さまざまな教科での学びにも活かすことができると考えます。

今後もマルチメディアDAISY図書の普及活動を推進し、子どもたちの学びと出会いを拡げていきたいと思います。